

問1 弥生時代に中国や朝鮮半島から伝わった鉄の利用について、当時の社会に与えた影響を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2018年 奈良公立入試 類似）

1. 木製農具の刃先に装着することで土地を耕す効率が向上し、農業生産力が高まった。
2. 土偶の表面を細かく削り出すための彫刻用具として、全国で広く普及した。
3. ナウマンゾウなどの大型の獣を捕らえるための、強力な打製石器の材料となった。
4. 須恵器と呼ばれる硬い土器を焼くために、窯の温度を上げる燃料として利用された。

問2 弥生時代の文化を象徴する遺物である「銅鐸」について、その使用目的や出土傾向を正しく説明しているものはどれか。（2024年 京都公立入試 類似）

1. 豊作を祈るための祭りの道具として用いられ、滋賀県や和歌山県を含む近畿地方で多くの出土が確認されている。
2. 実際の戦いや狩猟で使用するための実戦的な武器として、東日本を中心に広く普及した。
3. 縄文時代から続く伝統的な風習において、死者を埋葬する際に手足に装着する装身具として使われた。
4. 最新の農耕技術を伝えるための道具として、兵庫県や島根県などの沿岸部のみで限定的に使用された。

問3 弥生時代の稲作の普及に伴って変化した人々の生活や道具について述べたものとして、正しいものはどれか。（2023年 佐賀公立入試 類似）

1. 収穫した稲を湿気やネズミから守るために高床倉庫が造られ、穂首を刈り取るための石包丁などが使われた。
2. 人々は獲物を求めて移動生活を続け、土器は表面に縄目の文様がある厚手で大まかな作りのものが主流となった。
3. 稲作を管理するために、強力な権力を持つ支配者が各地に巨大な前方後円墳を築かせた。
4. 金属器はまだ伝わっていなかったため、すべて木製の農具と黒曜石の打製石器のみで耕作が行われた。

問4 「魏志倭人伝」に記されている、3世紀頃の日本（倭）の社会や政治の様子に関する説明として、当時の状況を正しく述べているものを選びなさい。（2025年 長野公立入試 類似）

1. 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった
2. 仏教が伝来した直後であり、各地で巨大な寺院の建設が始まっていた
3. 律令制度が導入され、戸籍に基づいて全ての人々に口分田が割り当てられていた
4. 武士団が結成され、各地の荘園を管理するために地頭が派遣されていた

問5 弥生時代に造られた、掘立柱によって床を高い位置に設けた建築物の特徴と目的について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2021年 佐賀公立入試 類似）

1. 収穫した稲を貯蔵するために造られ、湿気を防ぎ、ネズミなどの害獣の侵入を防ぐ工夫が施された。
2. 地面を円形や方形に掘り下げ、その上に屋根をかけた人々の住居として、防寒性を高める工夫がなされた。
3. 大陸から伝わった仏教の儀式を行うための施設として、屋根に瓦をふき、床に石を敷き詰めて造られた。
4. 貴族が政治や生活を行うための住居として、池を中心とした広い庭園に面して複数の建物が廊下で結ばれた。

問6 江戸時代に志賀島で発見された「漢委奴国王」と刻まれた金印や、3世紀の歴史書に記された卑弥呼が「親魏倭王」の称号を授かったという記述は、当時の日本と中国のどのような関係を示していますか。（2021年 茨城県公立入試 類似）

1. 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めてもらう関係
2. 日本が中国の王朝に対して軍事的な圧力をかけ、金印や称号を無理やり奪い取った関係
3. 中国の皇帝が日本の優れた統治体制に学び、日本の王に中国の政治顧問を依頼した関係
4. 日本と中国が対等な立場での自由貿易を約束し、称号の交換を経済的な儀礼とした関係

問7 朝鮮半島から稲作が伝わった弥生時代の生活様式について述べた文章のうち、収穫した稲の保管方法に関する説明として正しいものはどれですか。（2023年 茨城県公立入試 類似）

1. 地面を掘り下げて床を作った竪穴住居の中に保管した。
2. 湿気を防ぎネズミなどの害を避けるために作られた高床倉庫に納めた。
3. 大きな石を組み合わせで作った石舞台古墳の中に保管した。
4. 獲った獲物を燻製にするために、洞窟の奥深くに納めた。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 木製農具の刃先に装着することで土地を耕す効率が向上し、農業生産力が高まった。	弥生時代には、大陸から鉄器と青銅器がほぼ同時に伝来しました。鉄は硬くて鋭利な性質を持つため、木製農具の先に取り付けて土を掘り返しやすくしたり、木工具や武器として利用されたりしました。これにより、石器を使っていた時代に比べて稲作などの作業効率が劇的に改善されました。なお、青銅器は主に祭祀（お祭り）や儀式のための道具として使い分けられました。
問2	<b>答え 1</b> 豊作を祈るための祭りの道具として用いられ、滋賀県や和歌山県を含む近畿地方で多くの出土が確認されている。	青銅器はもともと大陸では武器や工具として使われていたが、日本に伝わると祭祀用の道具（祭器）として大型化・薄肉化した。銅鐸はその代表例であり、出土数の統計においても兵庫県、島根県、徳島県に次いで、滋賀県や和歌山県といった近畿圏で多く見つかっていることが特徴である。
問3	<b>答え 1</b> 収穫した稲を湿気やネズミから守るために高床倉庫が造られ、穂首を刈り取るための石包丁などが使われた。	稲作の定着により、食料を貯蔵するための高床倉庫が造られるようになりました。また、石包丁による「穂首刈り」が行われ、木製農具や、大陸から伝わった金属器（鉄器・青銅器）も併用されるようになりました。縄目の文様の土器は縄文時代、前方後円墳は古墳時代の特徴です。
問4	<b>答え 1</b> 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった	『魏志倭人伝』の記述からは、当時の倭には「大人」や「下戸」と呼ばれる明確な身分階級が存在し、租税（税金）の徴収や市場での取引が行われていたことが分かります。これは、単なる集落の集まりではなく、ある程度組織化された国家としての仕組みが整い始めていたことを示しています。
問5	<b>答え 1</b> 収穫した稲を貯蔵するために造られ、湿気を防ぎ、ネズミなどの害獣の侵入を防ぐ工夫が施された。	弥生時代に稲作が普及すると、収穫した稲を長期間保存する必要が生じました。高床（式）倉庫は、地面からの湿気が直接伝わって米が腐敗するのを防ぐために床を高く設計しています。また、梯子（はしご）を使って出入りする構造になっており、柱の上部には「ネズミ返し」と呼ばれる板を取り付けることで、貯蔵した食料を害獣から守る工夫がなされていました。
問6	<b>答え 1</b> 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めらう関係	1世紀には奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かり、3世紀には邪馬台国の卑弥呼が魏から「親魏倭王」の称号と金印などを授かりました。これらは、中国の皇帝から「位」を認めてもらうことで、国内の他の勢力に対して自らの権威を誇示しようとした外交の形を証明しています。
問7	<b>答え 2</b> 湿気を防ぎネズミなどの害を避けるために作られた高床倉庫に納めた。	稲作が普及すると、収穫した食料を長期保存する必要が生じました。地面から床を高く浮かせることで通気性を良くし、湿気による腐敗を防ぐとともに、ネズミなどの小動物の侵入を防ぐ「ねずみ返し」などの工夫がなされました。